

ペイシェントボイスカフェ（脳性麻痺）

お薬⇒体調の**微調整**のため、活動を**続けていく**ために続ける

背景

生後4週間までに脳に損傷を受け

⇒手足が不自由になる

*損傷により、知的障害やてんかん発作などを伴うこともある

運動機能を維持するため

リハビリ

補装具

薬物療法

手術など

を行っている

現状・・・

体の動きが“変な”動きになってしまう

体の**筋緊張**が激しい⇒疲労感に繋がる

普段の仕事・・・

資料作りは、横になって行っている

*実はこの方が、作業が早い

実は手すりを使えば、立てる

食事

自宅の専用テーブルを使えば、左手で食べられる

*テーブルは作ってもらった

*出先、外食では食べられないから誰かにやってもらう必要がある

なぜ薬を使う？

参加者の意見⇒（治す・体の維持・痛みを止めるため・生活の維持）

演者：

お薬を上手く使うことで、自分の可能性を広げる

小さい頃は普通の小学校に通っていた

（周りの人間関係に恵まれ、気遣ってくれていた）

自分の中でも割り切りがあった

（体が硬くなっても、効く薬がない⇒仕方ない）

10歳で入院した

体が動かない（入院＝手術という感覚があり、自分の中で恐怖だった）

体が動かないし、力が抜けないから眠れなかった

早く何とかしたい（しかし、どうしようもない）

精神的にも不安定にもなり、眠れず大変だった

- ・体が動かず、**緊張**もあり眠れない
- ・落ち着きたい

医師からは

「落ち着くのが良いかな」

⇒**精神安定剤**（眠れた）

落ち着くと

⇒自分を冷静に見つめることが出来る

（**活動**を続けていく上で、大切なことだった）

中学に入ると

下痢や**腹痛**に悩まされていた（特に**下痢**に至っては、一人でトイレに行くことができないため、大変）

医師のお話しは、**【過敏性腸症候群】**ではないかということだった

⇒整腸剤や下痢止めを服用したが、あまり効果を感じられず。

親からは、**小心者!**と言われたそう。

過敏性腸症候群:

消化器に器質的な異常がない（潰瘍があるとか炎症があるなどが見られない）にも関わらず、下痢や便秘、腹痛を繰り返す病態。

治療薬としては

『整腸剤（ミヤBMなど）、腹痛止め（ブスコパン：鎮痙剤）、下痢止め（イリボー）』

などがある

【ブスコパン】:腸管運動の活性化に働く、副交感神経伝達物質「アセチルコリン」の活性をブロックすることで、胃腸の痙攣に伴う痛みを抑制する

【イリボー】:腸管に存在し、腸管運動活性に働く気分安定ホルモンの一種「セロトニン」の活性をブロックすることで下痢を止める

緊張すると**腹痛**や**下痢**になり、余計に**緊張**するという**悪循環**

安定剤は、眠くなってしまう

⇒薬では、**解決できないのか!?**

知り合いの医院の系列の

⇒**漢方外来**にて（**【抑肝散】**の処方あり）

***認知症**のお薬としても使われる（私は認知症ではないという思いも）

抑肝散:

柴胡（血剤、清熱）、朮（脾胃薬、補気薬）、茯苓（水剤、利水薬）、川芎（血剤、補血薬）、当归（血剤、補血薬）、釣藤鈎（血剤、鎮静薬）、甘草（脾胃薬、補気薬）

神経症、不眠症など

抑肝散にて、緊張の頻度が激減

⇒悪循環から抜け出した

緊張が解けたりすることで・・・

一人で出かけてみよう！

積極的になった

⇒お薬によって、心が支えられることがある

『お薬で、心が支えられるということ

今までの私の中ではあまりない視点だった。

こうやって、お薬があることで人生・心が支えられている方もいることを知った。』

『自分に副作用は関係ない

血液検査も1年に1回しているし・・・』

しかし

抗菌薬を入院中に使用したところ、**高熱症状**が発現

⇒アレルギー症状と思われた

*お薬の変更後、37°C程度まで改善

抗菌薬：

様々なグループのお薬がある

⇒βラクタム系（ペニシリン系、セフェム系）、アミノグリコシド系、マクロライド系、ニューキノロン系など

*βラクタム系では、化学構造が類似しているため、セフェム系で過敏症が出た場合ペニシリン系でも過敏症が発現する可能性がある『交差反応』という

【お薬⇒怖い一面もある】ことを知った

自分なりに使い方を考えることも必要と考えた

胃痛⇒漢方薬の処方があった

『苦くてとても飲めなかった』

薬剤師へ相談したところ

⇒体調か体質に合っていない可能性があるとの指摘を受けた

*お薬が変更になった

体へのダメージをなるべく減らしたい

⇒自分が飲んでいる薬は・・・

【テルネリン】

脊髄からの運動神経（γ運動ニューロン）を抑制して筋肉内部の筋紡錘の感度を低下させる

（演者の体感としては、効き目が短くて弱い）

【ワイパックス】

BDZ系（神経を興奮しにくくさせて、落ち着かせる）

（演者の体感としては、効き目が長くて強い）

眠気に自分の仕事が妨害されてしまう

服用のタイミングを考慮することで、眠気とのバランスを整えた

自身の活動を維持するため・・・

患者の知恵と医療専門家の知識が融合する

⇒工夫を生み出すことができる

【生き生きと活動できる】

Qあなたが聞いた

患者が実現したいことは何ですか？

私が服薬指導の中で何人か聞いたこと・・・

①高齢の患者さんで、心不全を患っている方。心臓や肺に水がたまっていたけれど、利尿薬が効いて呼吸や動作が楽になったみたい。

⇒せめて楽にさせてあげたい。苦しまずに生活させてあげたい(利尿薬が助けになっているのかな)

②透析患者様。透析室に行くのを嫌がる。試しに『抑肝散』を服用したところ、少し落ち着いた。次回から1日1回の用法から1日3回の用法へ変更。結果、さらに状態は改善し落ち着いた。

⇒大変な生活の中で、本人や家族にとっても感情の起伏があまりなく数日に1回の透析に向かわせたい。(漢方薬が助けに。)

他にも思い出せばあるかも・・・。

お薬を何のために服用するのか、という演者からの質問。

自分の頭の中にも、当たり前のように疾患を治療するとか、生活を維持するとか、そういった目的が浮かんだ。しかし演者より、自分の可能性を広げるため、と聞いたときは新鮮な感覚があった。

患者さんの実現したい目的・目標など、意外と話しの中で聞いたことがなかった。

みなそれぞれに生活があり、人生があり、目的・目標がある。

医療者という立場で、ものさしで見ていると自然にその方の人生・目的という視点が少なくなっていたことに気づいた。

今回もまた、今後の薬剤師人生、一人の人間としての考えに一石を投じるような想いとなった。

また、もう一つ思ったことは、お薬の成分や剤形の処方提案の重要性を改めて認識した。

自己研鑽や薬剤師同士、医療者同士、患者さまとの協働医療の中で切磋琢磨して進んでいくこと。自分の病識・薬識を継続的に高めていく重要性を認識した。